

## 1 研究主題

# 主体的に学ぶ児童の育成 ～学ぶ意欲を育む国語科授業づくりを通して～

## 2 主題設定の理由

子どもたちがこれから生きていく社会は、新しい知識・情報・技術が社会活動の基盤として重要視される、いわゆる「知識基盤社会」の時代だと言われている。急速な情報化や技術革新によって社会構造や雇用環境が大きく変化する中、誰かの価値観や論理で評価され動くのではなく、自分の頭で考え、自分で行動し、よりよく問題を解決していかようとする人材が求められている。これからの学校教育では、単なる知識や手法の習得だけではなく、学ぶ意欲や主体性を育み、激しい変化に対応できる力を養うことが求められている。

新学習指導要領では、「資質・能力の三つの柱」として、「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力等」「学びに向かう力、人間性等」が示されている。国語で理解したり表現したりする様々な場面の中で生きて働く「知識及び理解」として身につけるために、思考・判断し表現することを通して育成を図ることが求められるなど、「知識及び理解」と「思考力、判断力、表現力等」は、相互に関連しながら育成される必要がある。こうした「知識及び理解」と「思考力、判断力、表現力等」の育成において大きな原動力となるのが「学びに向かう力、人間性等」である。

育成すべき資質・能力を育むためには、『何を教えるか』という知識の質や量の改善はもちろんのこと、『どのように学ぶか』という学びの質や深まりを重視することが重要である。そのために「主体的・対話的で深い学び」という授業改善の視点を持ち、教師主導の指導方法から子ども主体の学習方法へ転換していく必要がある。

本校では、平成29年度から自分の考えを確かに表現できる児童の育成をめざし、国語科「書く活動」を通して授業実践を重ねてきた。その結果、「書く」ことの力がつき、昨年度の県学習状況調査（12月実施）やCRT（到達度調査1月実施）の結果をみると、「書く」ことの正答率が県平均や全国平均を上回っていた。継続して取り組んだ結果の表れだと思われる。しかし、全国学力・学習状況調査児童質問紙（平成31年4月実施）、CRT（到達度調査1月実施）では「関心・意欲」の面が県及び全国平均を下回っている。また、教員対象の全国学力・学習状況調査学校質問紙（平成31年4月実施）では、「調査対象の児童は、熱意をもって勉強していると思いますか」という質問に対し、本校教員は「どちらかといえば、そう思わない」と答えた割合が最も高かった。さらに、「児童は、授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分で取り組むことができると思いますか」という質問に対しても、「どちらかといえば、そう思わない」と答えた割合が最も高くなっていた。日頃、教員が感じる児童の実態も含め、本校児童は、関心・意欲が低く、主体的に学ぶ力が弱いと考えられる。

そこで、本年度は、「主体的に学ぶ児童の育成」を目指して、教師の問いに答える受動的な学習から、自分で問いを見つけ、解決しようとする主体的な学習への転換を図る授業づくりの在り方を研究していく。昨年度までの国語科研究の成果を踏まえながら、意欲を生み出す授業のための具体的な手だてや、学習により主体的に取り組もうとする授業づくりに焦点を置いた研究を進めていく。そうすることで、児童は「書きたい」「聞きたい」「話したい」「読みたい」という欲求をふくらませ、基礎学力を身に付け、「もっと学びたい」「勉強はおもしろい」と実感し、学習により主体的に取り組むのではないかと考え、この主題を設定した。

## 3 研究の主題について

### 【主体的に学ぶ児童とは】

学習課題に対して自分の問いをもち、問題解決のために見通しをもち、見通しや計画に沿って、学んだ力を発揮させながら課題解決に取り組み、学びをふり返り、次への展望をもつことができる児童と考える。

## 4 研究の目標

児童の学ぶ意欲を高める手立ての工夫を通して、主体的に学ぶ児童を育てる指導のあり方を探究する。

## 5 研究の仮説

目指したい児童の姿を明確にし、児童の学ぶ意欲を高める単元構成や主体性を引き出す手立てを取りながら授業づくりを行ったり、学習習慣の確立へ向けた取組や学ぶ意欲を喚起する環境づくりなどの学びの土台づくりを行ったりすれば、学ぶ意欲をもち、主体的に学ぶ児童を育てることができるであろう。

## 6 研究の内容

### (1) 授業づくり

- ア 児童の学ぶ意欲を高める単元構成の工夫
- イ 主体的な学びを引き出す指導方法の工夫

### (2) 学びの土台づくり

- ア 学びに向かう集団づくり（学級づくり）
- イ 学習習慣の確立に向けた取組
- ウ 思考や想像力を養う環境づくり
- エ 読書活動の推進
- オ 児童の実態把握のための研究データ作成・調査分析

## 7 研究の方法

- (1) 資料及び文献による理論研究
- (2) 授業研究による実践的研究と授業研究
- (3) 講師を招聘しての理論研究と授業実践
- (4) 児童の変容と分析

## 8 研究にかかる年間計画

月	日	曜	研究会	研究内容
4	3	水	研究推進委員会	今年度の研究概要検討
	15	水	全体会	今年度の研究概要説明
5			研究推進委員会	今年度の研究概要再検討
			全体会・グループ	研究概要説明及び全体計画提案・授業研究計画
	27	水	全体会 授業研究会	特別支援学級公開授業
6	3	水	全体会	全体授業研究会（5年2組）指導案検討会
	10	水	全体会 授業研究会	全体授業（5年2組） ※講師招聘
	16	火	学校訪問	西部教育事務所訪問
			グループ(全体)	提案授業（1年2組）及び研究会
7	1	水	グループ	グループ研究授業（3年1組）及び研究会
	22	水	全体会	夏季休業中の研修について
			職員研修	Q-Uについての研修会
			グループ	指導案検討会
8	5	水	グループ	指導案検討会
			全体会	理論研修会（主体的に学ぶ意欲を高める授業づくり(仮)） ※講師招聘
9			グループ	グループ研究授業（5年1組）及び研究会
			グループ	グループ研究授業（1年1組）及び研究会

1 0	7	水	全体会	全体授業研究会（2年2組）指導案検討会
	1 4	水	全体会 授業研究会	全体授業（2年2組） ※講師招聘
			グループ	グループ研究授業（2年1組）及び研究会
			グループ	グループ研究授業（3年2組）及び研究会
			グループ	グループ研究授業（6年2組）及び研究会
	2 8	水	全体会	全体授業研究会（4年2組）指導案検討会
1 1	1 1	水	グループ	指導案検討会
			全体会 授業研究会	全体授業（4年2組） ※講師招聘
			グループ	グループ研究授業（4年1組）及び研究会
1 2	2	水	全体会	研究のまとめについて
			グループ	グループ研究授業（6年1組）及び研究会
1	1 3	水	全体会	研究のまとめ
	2 7	水	全体会	研究紀要作成
2	3	水	全体会	学習状況調査報告・対策
			研究推進委員会	次年度の校内研究構想検討
	2 4	水	全体会	次年度の校内研究構想提案
3			研究推進委員会	次年度の校内研究構想再検討
	1 0	水	全体会	次年度の校内研究構想確認

## 9 研究の組織

